

大槌町の郷土財を活用した復興まちづくり —湧水文化の再生に向けて—

会場:大槌町中央公民館(定員200名)

日時:2014年6月14日午後1時から開場

主催:「大槌学の地平から考える復興」シンポジウム実行委員会

共催:総合地球環境学研究所「環太平洋ネクサスプロジェクト」

プログラム

12:30 受付開始

13:30~13:45 あいさつ(主催者代表)

趣旨説明

13:45~14:30 基調講演 赤坂憲雄(学習院大学教授)

「海辺の風景が蘇るとき」

14:30~14:45 休憩

14:45~15:45 話題提供 竹村公太郎「初めて見る水循環」

秋道智彌「大槌のコモンズ、湧水を考える」

谷口真人「海と陸の湧水が持つ大槌のレジリエンス」、地元発表

15:45~16:45 パネルディスカッション:森誠一(司会)

質疑応答



参加問い合わせ先(事前参加登録要)

大槌町教育委員会気付

「大槌学の地平から考える復興」シンポジウム実行委員会宛

問い合わせ電話=0193-42-2300

申し込み=ファックス:0193-42-3031

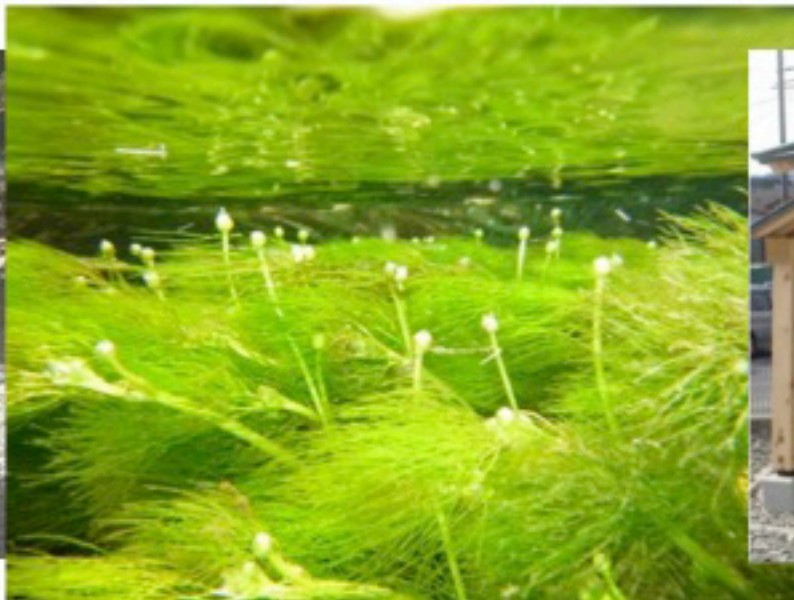
メール:kyodozaisympo@town.otsuchi.iwate.jp



主旨：2011年3月11日の震災によって重篤な被害を受けた大槌町は、湾内を含め湧出する湧水に依拠する町である。同町は、今まで何度も激しい地震・津波を経験してきたが、この豊かな湧水の存在が「郷土財」として町の成立を保証してきたといえる。しかしながら、今回の津波という環境激変において新たな状況が認められ、湧水環境が本来もっている頑強性と加速する都市化に対する脆弱性の解明が必要とされる。この解明を基軸にして、生物多様性の維持および湧水に依拠した生態系サービスや特徴ある国土環境を保全する営為は「湧水文化」として位置づけられ、社会的かつ現代的にもきわめて重要な課題となっている。

本シンポジウムは、こうした湧水を活用した地域づくりを実践している全国の多様な主体が大槌町に集まり情報交換し、さらなる交流を希求しつつ、今後の互いの活動をいっそう深化する契機となることを目的とする。ここで、基調講演に「東北学」の提唱者として著名な赤坂憲雄氏（学習院大教授）を迎え、また震災前から同町で研究活動を実施している研究者から話題提供をいただき、それらの成果を広く住民に周知し、合意を背景にした「復興まちづくり」への一助となることを期待するものである。

「大槌学の地平から考える復興」シンポジウム実行委員会
秋道智彌、森誠一、谷口真人、沢山重夫、佐々木健



参加希望者は、下記の申し込み用紙および内容で、ファックス(0193-42-3031)かメール(kyodozaisympo@town.otsuchi.iwate.jp)を送付ください。折り返し、参加証および宿泊紹介と交通の案内をお送りします。定員になり次第、申し込みは終了となります。

「大槌学の地平から考える復興」シンポジウム(2014.6.14)参加希望

氏名： _____ 性別： _____ 年齢(無も可)： _____ 歳
住所： _____ 所属(無も可)： _____
電話・ファックス： _____
メールアドレス： _____